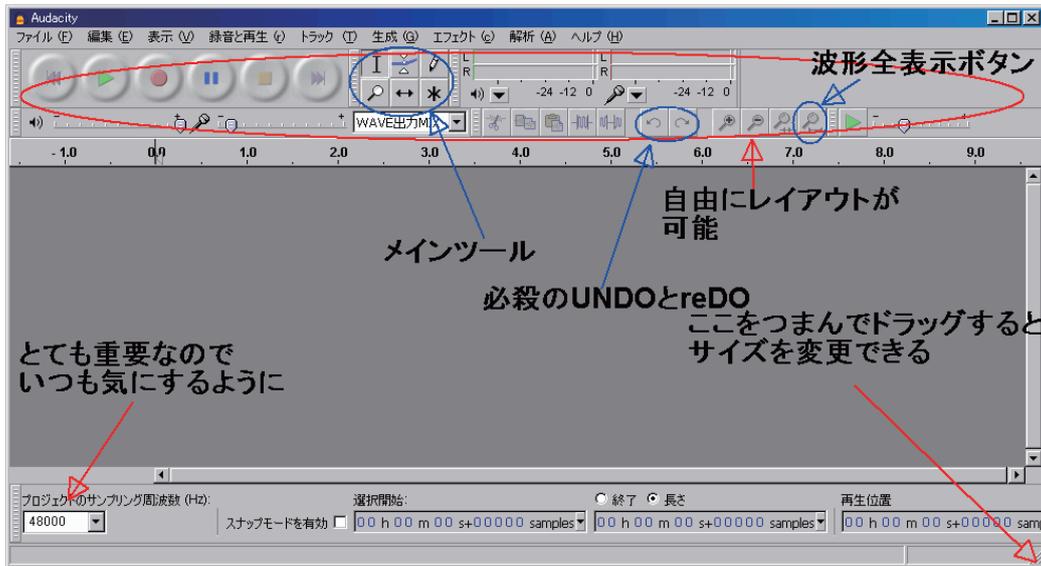


audacityの起動は、インストール版の場合は

- 1) デスクトップに作成されたショートカットをダブルクリックする、または
 - 2) 「スタート」→「すべてのプログラム」から audacity を選ぶ
- などの方法がある。

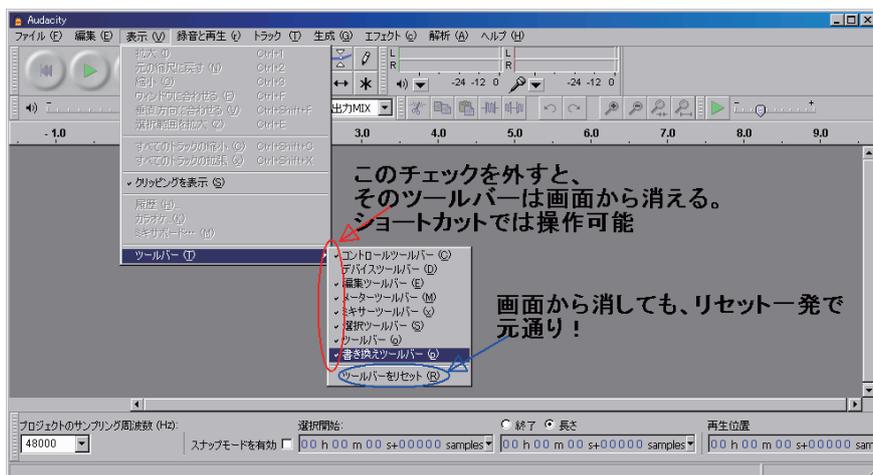
インストール不要版の場合は、

- 1) 作成したショートカットか、
 - 2) メインプログラムを直接ダブルクリックすると
- 起動することができる。



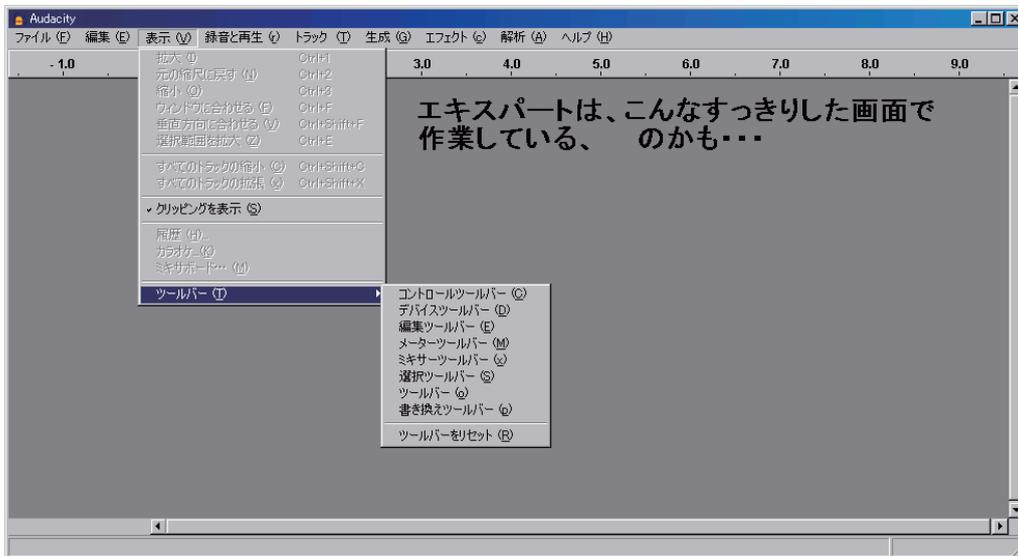
この画面は初回起動よりはサイズが大きくなっているが、もう少し小さい画面で、その前に「ようこそ」画面が表示されているはずだ。サイズは audacity の右下をクリックしドラッグすると自由にサイズが変更されるので、適当な大きさにしよう。最大化するとファイルを読み込む（ドラッグアンドドロップで）のに最小化しなければならなくなる。

audacity の画面は様々なカスタマイズができる。このカスタマイズを行うには、「表示」→「ツールバー」から必要なものにチェックマークを付けるのだが、もしわけがわからなくなったら、「ツールバー」の一番下の「ツールバーをリセット」すると、初期状態（この画面のような）に戻ることができる。



audacityの起動

キーボードによるショートカットを覚えれば、



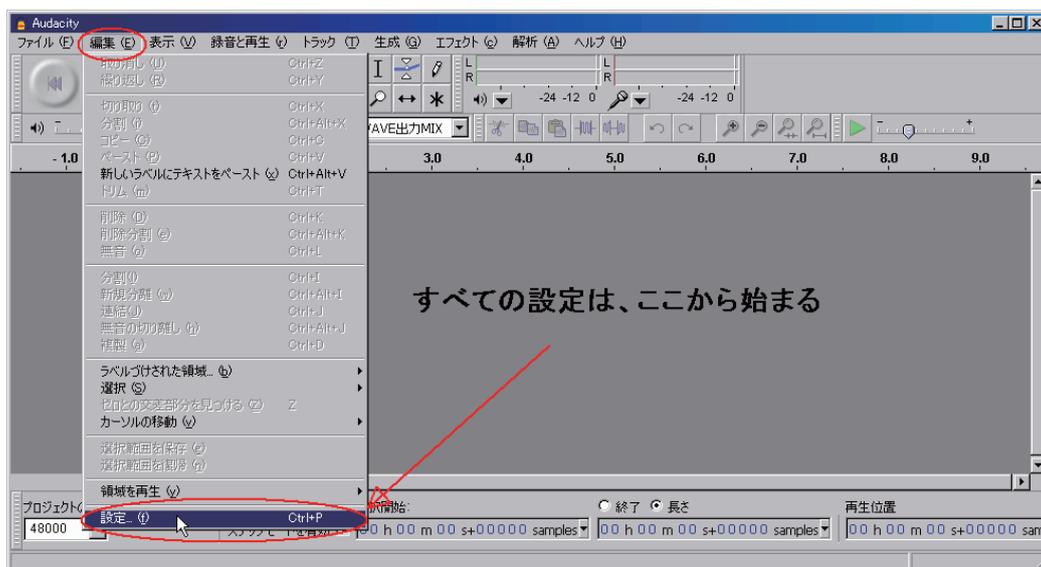
このようなシンプルな画面でも、てきぱきと操作できる。

○起動したら、いくつか設定を行う必要がある。

ほとんどの設定は

「編集」→「設定」で、設定の画面が表示されるが、バージョンにより設定メニューは変更されることがある。

多少面倒でも、この設定は重要なものばかりなので、早く慣れたいものだ。



○デバイス

コンピュータに最初から搭載されている、サウンドの入出力（内蔵スピーカー、内臓マイク、内蔵ヘッドホン出力、内蔵ライン入力）を用いる場合は、変更は不要だ。しかし、コンピュータ側の設定が不適切な場合、このデバイスが正しくても、正常に音が出ない、あるいは録音できない、などの問題が起こることがある。

audacityの起動

*コンピュータ側の設定 (正常に録音再生できる場合は不要)

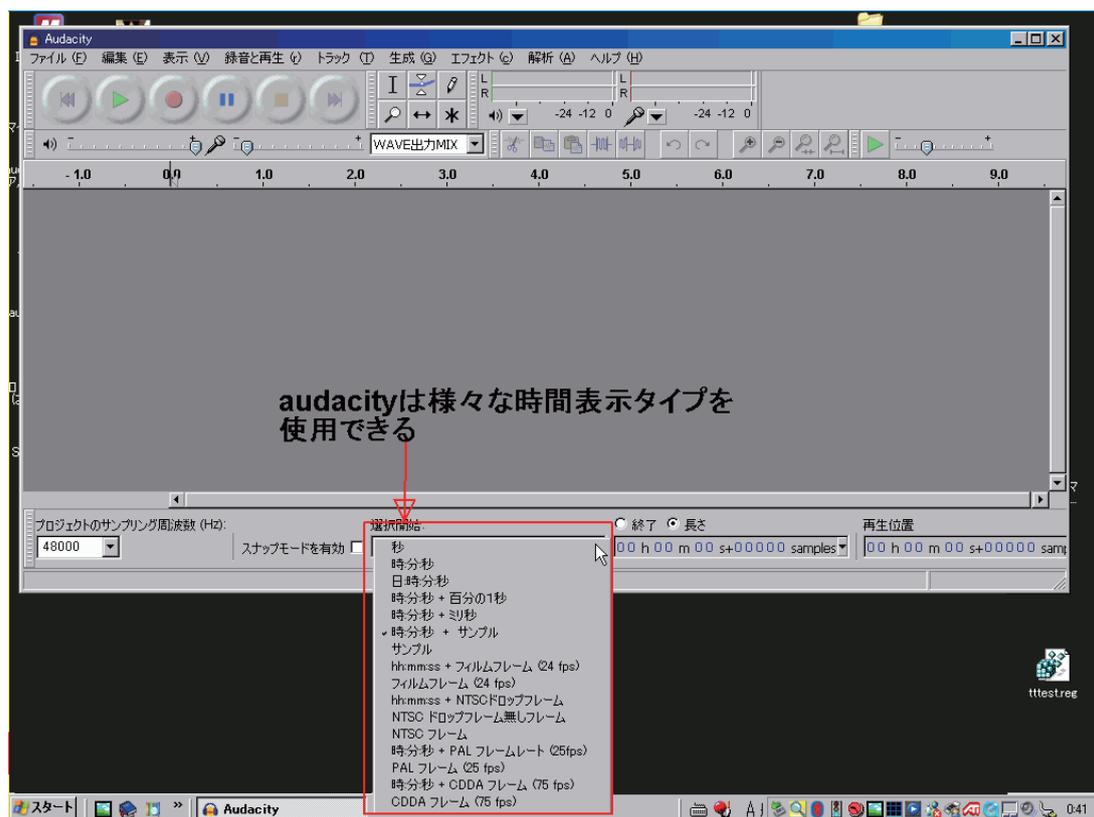
デスクトップ画面の左下の「スタート」→「コントロールパネル」→「サウンドとオーディオデバイス」を開き、「オーディオ」または「音声」のタブから「音声再生」→「音量」で、ミキサー画面が開くが「WAVE」が最大かつミュートされていないか確認する。(ミュートとは消音のこと)

同様に「録音」→「音量」で、同様に別のミキサー画面が開くが、この設定は audacity の「ミキサーツールバー」の窓からリモート操作できる。

*もし外付けの USB オーディオインターフェースなどを増設している場合、このデバイスの画面か、「表示」→「デバイスツールバー」を表示し、そこで切り替える必要がある。

○それ以外の設定は、とりあえずデフォルトの状態で使用可能であろう。

○設定の一つではあるが、画面下の時間表示のある「選択ツールバー」の表示形式は必要な形式に選択する必要がある。



選択は

- 1) 秒
- 2) 時:分:秒
- 3) 日:時:分:秒
- 4) 時:分:秒+百分の1秒
- 5) 時:分:秒+ミリ秒
- 6) 時:分:秒+サンプル

- 7) サンプル
- 8) 時:分:秒+フィルムフレーム (24fps)
- 9) フィルムフレーム (24fps)
- 10) 時:分:秒+ NTSC ドロップフレーム
- 11) NTSC ノンドロップフレーム
- 12) NTSC フレーム
- 13) 時:分:秒+ PAL フレーム (25fps)
- 14) PAL フレーム
- 15) 時:分:秒+ CDDA フレーム (75fps)
- 16) CDDA フレーム (75fps)

1～3) までは説明不要だろう。4～6) は一秒以下をどのように表現するかの違いだ。デジタルオーディオでは、1秒間を一定間隔で細かく区切り、数値化して記録や加工をおこなうが、例えば CD では毎秒を 44100 に区切り、それぞれを数値化している。つまり、一単位は $1/44100$ 秒で、この $1/44100$ 秒が最小単位となる。この「細かさが扱う音の性能（とくに高音域）を決めてしまうので、求められる品質によりいくつかの数値がよく使われる。 $1/44100$ 、 $1/48000$ 、 $1/96000$ などだが、その 1 秒間の数（周波数）で表す。それぞれサンプリング周波数 44100Hz（ヘルツ）（44.1kHz とも）48kHz、96kHz と表記。

6) はそのサンプル数で 1 秒以下を表したものだ。44099 の次は 1 秒に桁上げされる。2 秒のすぐ下は 1 秒 44099 (サンプリング周波数 44.1kHz の場合)。デジタルオーディオとしての最小単位を表すので、筆者の場合 6) の「時:分:秒+サンプル」に設定していることが多い。

7) は時:分:秒もすべてサンプル数で表すので、大きな桁数になり、感覚的に把握しづらいが、プログラミングや測定用途などでは、この方が都合よいこともよくある。

8～9) 映画の世界では、毎秒 24 コマあるので、そのコマ数単位（フレーム）の表示。

10～12) は日本、アメリカ、韓国で使用されているビデオ形式である NTSC 方式の時間単位に合わせて、時間表示を行うモード。ドロップフレームでは 29.97 フレーム毎秒なので、計算が面倒だが、ビデオとはそんなものだ。

13～14) ヨーロッパで使用されているビデオフレームは 25 フレームなので、このモードがある。

15～16) フィリップス・ソニー規格のオーディオ CD では、588 サンプル単位＝毎秒 75 フレーム単位で記録再生・情報処理を行っているため、このモードがある。

上記したように、最も解像度の高い指定ができて、また数値理解しやすいものは 6) で、これから編集作業を手がける方は、これに慣れておくと便利であろう。また audacity は 1 サンプル単位の編集が最も得意なソフトであるため、これを推奨。